

国際交流クラブ 6 月例会（第 1 回）の実施報告



6 月 9 日(金) 午後 6 時半から当財団主催の国際交流クラブ第 1 回交流会を実施しました。今回は、「体感!!! 日本文化の真髄—みんなで折り紙を作ってみよう!!!」と題して、日本折紙協会講師の宮本眞理子(みやもと まりこ)先生をお招きして、日本の伝統文化のひとつである折紙の魅力について解説いただき、留学生達に実際に折紙づくりを体験していただきました。

折り紙（おりがみ、折紙）とは、紙を折って動植物や生活道具などの形を作る日本伝統の遊びとして知られていますが、近年では折り紙の芸術的側面が再評価され、昔にはなかった複雑で優れた作品が生み出され、各国に伝承する折り方に加えて、新しい折り方も考案され続けており、宮本先生はその先導役として日本全国、さらには世界各地に折紙の魅力を伝えるべく日々努力されています。参加した 30 名近い留学生、一般の方々には宮本先生の指導を受けながら、折り紙用の和紙や紙を使って鶴と小箱を制作しました。前回、連鶴という作品が結構難しく留学生も日本人参加者も相当苦心していましたので、今回は優しい折り紙を宮本先生に選んでいただき、留学生たちもなんとか形にしていました。講演の後は国際交流クラブの交流会を開催し、各大学の留学生同士の交流とともに日本人参加者との交流もテーブルのあちらこちらで賑やかに行われました。

折り紙（おりがみ、折紙）とは、紙を折って



折り紙を作る留学生達



宮本先生を囲んでの集合写真



宮本先生の折り紙作品



今回の作品見本の鶴と小箱